

## 令和3年度 家政学部 前期授業アンケート結果の講評

講評者（学科長/専攻主任）：丹羽誠二郎（ライフスタイル学科長/家政学専攻主任）  
竹村ひとみ（管理栄養学科長/管理栄養士専攻主任）  
加藤万也（こどもの生活学科長/こどもの生活専攻）

## 〔1〕アンケート実施について

令和3年度、後期授業14～15週目に家政学部全科目について授業評価アンケートを実施した。  
アンケート回収率については下記の通りであった。

	回答率 (%)	回答率 (最高) (%)	回答率 (最低) (%)
家政学部	86.5	100	27.6
ライフスタイル学科/家政学専攻	83.2	100	30.8
管理栄養学科/管理栄養士専攻	88.7	100	41.9
こどもの生活学科/こどもの生活専攻	91.0	100	27.6

## 〔2〕授業における教員に対する評価

## 〔質問項目〕

- 質問1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。  
質問2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。  
質問3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。  
質問4. 教員は学生の理解を確かめていた。  
質問5. 教員は、学生が社会人基礎力を活用できる授業を展開した。  
質問6. 教員は、シラバスに沿って学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。  
質問7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。  
質問8. 教員が作成した予習・本時・復習シート（PCRシート）は、学修内容の理解に役立った。  
質問1-8の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」  
「1 全くそう思わない」

## 〔アンケート結果〕

	家政学部	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問1	4.32	4.11	4.35	4.42
質問2	4.17	3.96	4.19	4.29
質問3	4.21	4.03	4.21	4.30
質問4	4.21	4.02	4.20	4.29
質問5	4.21	3.99	4.25	4.31
質問6	4.26	4.06	4.33	4.30
質問7	4.21	4.02	4.28	4.24
質問8	4.11	3.83	4.24	4.19

## 質問1～8 授業における教員に対する評価について

### 〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「授業における教員に対しての評価」は概ね4.0ポイント前後を得ている。ただし、他学科／専攻の平均値と比較するとどの項目においても評価が低く、今後、より丁寧な学生指導が必要となろう。とくに質問8「教員が作成した予習・本時・復習シート（PCRシート）は、学修内容の理解に役立った」は、最もポイントが低く、これは質問9以降の「学生自身の学修に対する評価について」の結果にも関連して、予習・本時・復習シートの見直しを学科／専攻教員に求めたい。

### 〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

教員に対する評価では、概ね良好な評価を得た。特に質問1「授業時間分の学修内容の実施」質問6「シラバスに沿って学修内容を明確した授業への取り組み」について高い評価を得た。一方、質問2「説明は明確で理解しやすい」、質問4「学生の理解を確かめていた」について、やや低い評価であったことから、受講生に理解しやすい授業を構成し、理解の確認を行いながら授業を進行していくことが必要である。

### 〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

今期アンケートの教員に対する評価では、全項目で学部全体の結果よりもわずかながらではあるが上位であった。この要因は、こどもの生活学科には教員経験者が多く、学生の理解に関してその確認を常に意識した授業を行うという点において、高い評価を得られたと考えている。また、質問8の数値が他の質問と比べて低いことから、全教員が「予習・本時・復習シート」に対してさらに深く理解する必要があると考えている。

## 〔3〕学生自身の学修に対する評価について

9. あなたは、予習・本時・復習（PCRシート）に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。
10. あなたは、毎週シラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。
11. あなたは、毎週シラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。
12. あなたは、予習をすることで学修内容への理解が深まった。
13. あなたは、復習をすることで学修内容への理解が深まった。
14. あなたは、この科目に対して予習（事前学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度で）で教えてください。
15. あなたは、この科目に対して復習（事後学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度で）で教えてください。
16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。
17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。
18. 教員からの学修支援に満足している。
- 9-13,16-18の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★14,15の回答：記述式（数値入力）

〔アンケート結果〕

	家政学部	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問 9	4.04	3.67	4.24	4.13
質問 10	3.87	3.40	4.15	3.94
質問 11	3.93	3.54	4.19	3.98
質問 12	3.98	3.58	4.18	4.09
質問 13	4.06	3.70	4.23	4.18
質問 14	29.97	19.89	36.36	31.12
質問 15	35.10	25.72	51.17	31.64
質問 16	4.04	3.80	4.04	4.19
質問 17	4.17	3.90	4.18	4.35
質問 18	4.17	3.93	4.17	4.30

質問 9～18 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「学生自身の学修に対する評価について」も「授業における教員に対する評価」同様、すべての項目において3学科／専攻中、最低のポイントにとどまっている。予習・復習に要している時間もシラバスで示している時間に全く足りていない。予習・本時・復習シートの見直しとともに、授業内でのシラバスの活用を積極的に行い、15週全体にわたる学修の見通しのもとに、予習・復習に取り組めるよう教員側からの指示、指導を徹底する必要がある。

ライフスタイル学科／家政学専攻は、他の2学科／専攻と異なり、資格取得をベースとしたカリキュラム構成ではない。そのため、個々の科目に対する受講目的・目標を明確にし、授業に臨むことができるような更なる工夫を検討しなければならない。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

学生自身の学修に対する評価では、概ね良好な評価を得た。特に、質問9「PCRシートに記載されている社会人基礎力を発揮した予習・復習への取り組み」、質問13「復習による学修内容への理解の深まり」で高い評価を得た。また、予習と比較し復習により多くの時間を費やしていることが明らかとなった。一方で、質問16「シラバス記載の学修の到達目標を達成できた」の評価がやや低い。到達目標に達成していないと評価した学生、科目の特性を踏まえた対策を講じる必要があると考える。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

学生自身の学修に対する評価については、ほとんどの項目で学部平均を上回っていた点では満足できるものである。ただし、予習復習の時間量に関してはまだまだ伸長できると考えるので、予習復習について意欲を引き起こすこととともに、どのようなことを行うかを具体的に示し、さらに予習復習の習慣を確実に身につけさせることが重要だと考えている。特に質問15の数値が示すとおり、質問14の予習は行うが（課題のための時間だと推察する）復習に関しての時間が短いので、将来（公務員試験・教員採用試験）を見通した上での復習の重要性を学生に伝える必要があると認識している。

〔4 学修行動について〕

質問 19. 本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか。(複数回答あり)

★19 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力  
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

〔アンケート結果〕

	発揮できなかった能力			
家政学部	ストレスコントロール力(25.4%)	計画力(24.1%)	働きかけ力(22.4%)	創造力(22.2%)
ライフスタイル学科/ 家政学専攻	ストレスコントロール力(29.7%)	働きかけ力(22.2%)	課題発見力(21.3%)	創造力(21.2%)
管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	創造力(25.9%)	発信力(24.9%)	ストレスコントロール力(24.4%)	計画力(23.0%)
こどもの生活学科/ こどもの生活専攻	ストレスコントロール力(28.0%)	計画力(25.8%)	主体性(23.8%)	課題発見力(23.0%)

質問 19 学生自身の学修行動に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

質問 19「本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか」の回答結果については、いくつかの受け取り方ができるように考える。一つには、その能力の発揮を求められていたものの、それが叶わなかったという場合。あるいは、学生自身が考えるほどにはその能力の発揮が必要なく、結果、発揮しなかった場合もある。さらには、前者に近い形だが、科目内でその能力の発揮を特に強く求められた／意識したため、自身の不足部分が明らかになったということもあるのではないだろうか。そのように考えると、この結果からのみで評価を下すことは困難に思われる。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

発揮できなかった能力として「創造力」「発信力」が上位に挙げられた。「発信力」は毎学期、発揮できなかった能力として上位に挙がる要素である。他学科/専攻では上位に挙がっていない能力であり、管理栄養攻に特徴的な要素であると考え。今後は、授業形態別または科目毎の傾向について分析していく必要がある。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

発揮できなかった能力について「ストレスコントロール力」が最高位であることには正直若干驚いた。これは捉え方として二方向が考えられ、ひとつはストレスコントロールができずに非常にストレスフルだったと見る方向と、もうひとつはほとんどストレスがない状況で学修を楽しめたと見る方向である。学科の傾向から考えると、後者ではないかと推測するが、質問の方法を変えないとこのようなことが起こりうると考える。また、全項目の中で幹となる「主体性」について低位であるというのは、人間性の育成という観点からより集中的に「主体性」の育成をする必要があると考えている。